

iD Flow Orchestrator

Ver3.0 リリースノート

リリース日: 2026 年 8 月 19 日 対象バージョン: Ver3.0 (前バージョン: Ver2.0)

バージョン	リリース日	変更内容
Ver3.0	2026 年 8 月 19 日	Web 画面の Next.js への移行、.NET 10 への移行と Linux 対応の拡大、新機能の追加（SAML 認証・後続データフロー・フィルタ条件の関数・DRYRUN・CSV インポートプレビュー）、データベースアップグレードツールの提供

1. iD Flow Orchestrator Ver3.0 リリース概要

iD Flow Orchestrator（以下、iDF）Ver3.0 では、実行基盤の Next.js、.NET 10（長期サポート版）への移行を主軸に、SAML 認証・後続データフロー・DRYRUN をはじめとする新機能の追加、および旧バージョンからの移行ツールの提供を行いました。

1.1 Next.js、.NET 10 への移行と Linux 対応の拡大

Web 画面: Next.js への移行により、Windows Server に加え Linux でも動作可能になりました。

コンポーネント	Ver2.0	Ver3.0
iDF Server（サーバー本体）	Windows Server	Windows Server
Web 画面	Windows Server	Windows Server / Linux
スクリプトエージェント	Windows / Linux	Windows / Linux

スクリプトエージェントを Linux サーバーへ導入することで、Linux 上でのスクリプト実行によるリソース連携が可能になりました。

1.2 SAML 認証への対応

SAML 認証によるシングルサインオンに対応しました。外部の IdP（Identity Provider）と連携したログインが可能になります。

1.3 後続データフローの追加

データフローの実行完了後に、あらかじめ指定した後続のデータフローを自動的に起動できるようになりました。これにより、ユーザーのデータフローの実行後にグループのデータフローを実行でき、ユーザーに変更があった場合

も、グループの連携を動的に行えます。

1.4 フィルタ条件での関数利用

フィルタ条件で関数が利用できるようになり、より柔軟な条件指定が可能になりました。

1.5 DRYRUN（試験実行）モードの追加

連携先リソースへ実際の反映を行わずに、ジョブの実行結果を事前に確認できる DRYRUN モードを追加しました。実行結果は DryRun 実行ログで確認できます。

1.6 CSV インポートプレビューの追加

CSV ファイルの取り込み前に、取り込み内容とチェック結果を画面上でプレビュー確認できるようになりました。

1.7 データベースアップグレードツールの提供

旧バージョン（Ver1.0 / Ver1.1 / Ver2.0）のデータベースを、実データを保持したまま Ver3.0 の形式へ変換するアップグレードツール（iDFDatabaseUpgrade）を提供します。

2. 動作環境

コンポーネント	対応プラットフォーム
iDF Server（サーバー本体）	Windows Server 2022 / 2025（x86_64）
Web 画面（管理者向け / 利用者向け）	Windows Server 2022 / 2025（x86_64） Rocky Linux / RHEL 9
スクリプトエージェント	Windows 2022 / 2025（x86_64） RHEL 9

※管理者・利用者の操作には、一般的な Web ブラウザー（最新版を推奨）をご利用ください。

3. 今回のバージョンアップによる影響

3.1 Linux 対応の範囲について

Linux に対応するのは Web 画面 です。iDF Server（サーバー本体）は従来どおり Windows Server 上で動作します。サーバー本体を含む構成をご検討の場合は、Windows Server 環境をご用意ください。

3.2 Ver2.0 からの移行

データベースアップグレードツール（iDFDatabaseUpgrade）により、Ver2.0 のデータベースを実データごと Ver3.0 へ移行できます。